



- 永代共養墓について
- ぶつぐら雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつぐらグッズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇氣](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第27回 人間と占い

BI 1 チェック いいね! 0 Tweet

皆さんは占いを信じますか。信じるとして、どんな時に、どの程度の真剣さで占いに頼っていますか。

日本人は占い好きな民族だと、長いこと思っていました。テレビを付ければ朝っぱらから「今日の占い」が流れていますし、寺社仏閣に行けばみんな当たり前のように100円を払っておみくじを引き、赤ちゃんが生まれれば両親はもとより双方のおじいちゃんおばあちゃんまでが一家総出で姓名判断に頭を悩ませ、人に会えば嬉々として「血液型は何か?」と尋ねる。

頻度や真剣さの違いこそあれ、日本人の多くはそうやって日々の暮らしのなかでひんぱんに占いのご託宣に耳を傾け、その結果に一喜一憂しているのではないのでしょうか。

なかには占いの結果などまったく気にしないと豪語する人もいるでしょうが、おみくじで「凶」を引いてしまったおかげで気分がちょっぴり凹(へこ)んだり、

「血液型がA型なのだから、あなたは真面目で融通の利かない人でしょう」

と決めつけられてムツとしたことのある人も、決して少なくないのでは?

私の同級生のなかには、「厄年」が近づいて来た途端に、「来年は厄年だろう。何か不幸なことが起こったらイヤだなあ。今から気が重いや」と、何も起こっていないうちから急に厄年を気にし始めた人が何人かいたのですが、不思議なことに、彼らはひとり残らず厄年のあいだに大きな病気や事故で入院してしまいました。

それに対し、自分が厄年であることにすら気づいていないような能天気な人たち(たとえば私もそうでした)は、ごく無難に、これと言った病気も怪我也せず、いつもどおりの1年を過ごしました。


- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)

① ×

私が生まれた本当の意味って？

マヤ暦占星術で自分の使命が分かるあなたらしく輝いた生き方になる方法とは

mayan-astrology.org



この一件から想像するに、たとえ占いそれ自体に「実体」はなくても、信じやすく暗示にかかりやすいタイプの方は、占いに引っ張られ、むしろ現実を占いの結果に合わせてしまうようなことがあり得るのではないのでしょうか。

言葉は、それ自体に力があります。「あなたは生まれつき胃が弱いですね」と占い師から断言された途端、それまで子どもの頃から特に何ともなかった胃の調子が急におかしくなりはじめ、そのうち朝となく夜となく胃のことを心配するようになって、最後は本当に胃潰瘍になってしまった人を知っています。

そういう例を見るにつけても、占いというものは、信じやすい性質(たち)の人たちにとってはなかなかどうして怖いものかも知れません。

そういえば今年のワールドカップでは、パウル君のタコ占いが恐ろしく当たると世界中で大騒ぎになっていました。

有名なニュースですから今さら説明する必要はないと思いますが、念のために書いておきますと、パウル君はドイツの水族館で飼われている2歳半のマダコ。「赤ちゃんの頃から特に頭のいいタコだった」(飼育員・談)とされるパウル君は、サッカーのドイツチームの勝敗を占うことで本国では以前からつとに有名だったのだそうです。

タコ占いのやり方は簡単で、対戦チームのそれぞれの国旗が付いた2つの箱(餌入り)を水槽に入れ、パウル君が先に開けたほうの箱(に付いている国旗の国)が勝ちとなります。

その占いが、今年のワールドカップ南アフリカ大会では当たりに当たり、なんと8戦8勝だったというから驚きです。

ちなみに、この方法(つまり二者択一)で8回連続して正解を当て続ける確率は256分の1。「まぐれ」ではなかなかできない芸当です。

さあ、一体これは純粋にタコの靈感(?)が命中したのか。それとも、各国であまりにも大々的に報じられたニュースに選手やサポーターのほうに心理的にやられてしまい、本来なら勝てなかったはずのチームが、

「よっしゃ！ タコのパウル君が勝てるって言ってるんだから、きっとオレたち勝てるんだぜ！」

と勇気百倍して勝ってしまったのか。

あるいはその反対に、実力の上では勝てるはずだったチームが占いの結果に引きずられて意気消沈し、結局は負けてしまったのか。

事の真偽はともあれ、今回のパウル君の一件で私は、世界中の人々がいかに占い好きであるかに改めて気づかされると同時に、占いのような怪しげなものは一見縁のなきようなドイツ人が、実はなかなかの占い好きだったことを知って、少なからず驚いたりもしたのでした。

さて、ことほど左様に占いが大好きな人類ですが、そのなかでも「真打ち」と呼べる真性の占い好きは、おそらくインド人でしょう。

インドでは、21世紀の今なお、結婚相手を選ぶ際に占い師のところへふたりのホロスコープ(占星術に使われる天体配置図)を持って行って相性を見てもらうのが普通のこと

すし、旅に出かけるにも引っ越しをするにも、こぞというイベントの前には占い師にお伺いを立て、その結果に従って行動する人のなんと多いことか！

一般人はもちろんのこと、インドでは政治家たちもかなりの確率でお抱え占い師の意見に従っているようですから、こうなってくると話は国際関係にまでおよび、複雑です。

あまり知られていない話ですが、かつて中曽根康弘首相が訪印した際に、インディラ・ガンジー首相から会見をドタキャン(正しくは延期)されるという椿事があったそうです。

何か月も前から綿密に計画されていた首相同士の会見のドタキャンは、国家の一大事とか急病でもない限り、たいへん稀なケースではないでしょうか。しかも、この時はインド側のドタキャン理由がいまいちハッキリせず、日本側は理由を探るべく必死になった奔走したそうです。

当時のことを、私は外交官だった人からこっそり教えてもらったのですが、ガンジー首相が「その日は会えない」と突然言い出した理由は、彼女のお抱え占星術師の、「その日はまことに験(げん)が悪い。日延べをなさるべきです」という鶴の一声だったとか。

インドではイベントの直前になって占い師が何かを決定することが珍しくなく、おそらくこのときも、急な「お告げ」があったのでしょうが、ドタキャンされた側にとっては「笑えない話」です。

余談ながら、このときガンジー首相に会見を日延べするよう進言したとされる占い師とは、実は私も1990年代にお友達づきあいをさせていただいていました。

その方は、パンディット・パルサイ氏といって、占い師であると同時に修士号を二つも持つ学者でもありました。デリー市内の地味な公営アパートでひっそりと暮らしていらっしゃいましたが、インドの歴代首相の政治アドバイザーとして君臨なさった方です。

パルサイ氏のお話によれば、最初にガンジー首相にお会いになった時、氏は、

「あなたのお体の、ここと、ここと、ここにホクロがあるはずです」

と、首相のサリーの下に隠れた複数のホクロの位置をいきなり言い当て、それがもとで、首相はすぐにパルサイ氏を信じるようになったのだとか(あくまでもパルサイ氏から伺った話ですが……)。

一国の首相がそんなにも易々と占い師を信じてしまうとしたら、なんとも空恐ろしい話ですが、最近の日本を見ていると、なんだか似たような「笑えない事態」が起こっているような気がしませんか。

ちなみに私の個人的な経験から申しますと、上記のパルサイ氏の占いは、長い目で見ると全体の5分の1も当たりませんでした。

占いは、あくまでも「たくさんあるアドバイスのひとつ」と割り切って楽しみたいものですね。

≪ 第26回 空海さんの謎 第28回 日本人、最高! ≫

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。



山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>

私が生まれた本当の意味って？

マヤ暦占星術で自分の使命が分かる あなたらしく輝いた生き方になる方法とは mayan-astrology.orgへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



© 2002-2016

真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう！](#)

[たいけんしてみよう！](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん！](#)

[ぶつ仏クイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院News](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

外壁塗装の適正相場っていくら？

利用者の93%が【安くなった】と回答。あなたの街の適正価格／5秒でチェック！ gaiheki.yeay.jpへ進む

